あの夏　1979年　3回戦　箕島×星稜　1

転倒 そして物語は続いた

「高校野球史上最高の試合」と語られる一戦は、カクテル光線とともに記憶される。

黄色っぽい照明の灯の中、白球がフラフラと舞い上がったのは延長16回裏だ。星稜（石川）の一塁手・加藤がファウルゾーンで白球を捕れば試合終了となり、春夏連覇を目指した箕島（和歌山）の夏は終わるはずだった。

加藤はしかし、捕球体勢に入った瞬間、尻餅をつくように転倒してしまう。

1979年8月16日、時刻は間もなく、午後7時半になろうとしていた。

中学生だったぼくは、茶の間でテレビを見ていた。父親も一緒にいたと思う。「ああっ！」と声をあげた気がする。そんな人が、日本中にたくさんいたはずだ。

さらにその4球後、同点本塁打が飛び出すとは。両校ベンチも、3万4千人の観衆も、テレビやラジオ中継の視聴者も、おそらく誰も予想できなかった。そして18回、星稜はサヨナラ負けを喫する。

この転倒が、加藤を長く苦しめることになる。「本人は気にしとらんでも、周りが気を使うんよね」。しばらく音信不通になると、自殺説まで流れた。それでも少年野球の指導者として野球に戻った。昨夏は次男が母校の選手として、甲子園の土を踏んだ。

「色んなことも含めて、野球をやってよかったと思うよ」。加藤は柔らかく笑んだ後、「一つだけ、ずっと気になってることがある」とつぶやいた。

「堅田に謝ってないんよ。時間が経つにつれ、『ごめん』と言えんくなった。うに話はするんやけどね」

堅田は1人で18回を投げ続けた左腕エース。中学時代からのチームメートだった。

数年前に雑誌の取材で、そう話した。その記者が堅田に伝え、反応を教えてくれた。

「おれがホームランを打たれなかったら、加藤は苦しまなくてもよかった。おれの方こそ、ずっと謝りたいと思っていたんだ」

加藤は「それを聞いて、泣きそうになった」と言う。

色んなことがありすぎた試合だった。箕島は12回裏にも、2死から嶋田が同点本塁打を放っている。何をしても格好いい男の「予告ホームラン」だった。14回には隠し球でサヨナラのチャンスを逃した。このときアウトになった三塁走者の森川が、16回に同点弾を放った。昼間は自動車整備工場で働き、定時制で学ぶ2年生にとって、これが高校生活の初本塁打だった。

一つ一つのプレーにドラマがあり、一人一人の選手に物語があった。そして、その後の人生がある。

インベーダーゲームが流行し、「ヤングマン」が大ヒットした年だった。35年前の球児たちは、もう50歳を過ぎている。彼らに会い、あの夏の物語を集めてみよう。

（このシリーズは安藤嘉浩が担当します。敬称は略します）

延長12回、箕島の嶋田が同点本塁打

延長14回、星稜の若狭（右）の隠し球で森川がアウト

延長16回、星稜の加藤が転倒

その直後、星稜の堅田（左）から森川が同点本塁打

1979年8月16日 3回戦 第4試合 時間 3時間50分（16時6分～19時56分） 観衆 34,000人 審判 永野/小林/木嶋/達摩/片岡/橋本

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計	盗塁	失策
星稜（石川）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3	3	1
箕島（和歌山）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	4	3	1

得点打

		学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
星稜 山下智茂監督(34)	[一] 加藤 直樹	3	中安		二ゴ		左飛			投ゴ			中安		投ゴ		三飛		左飛	
	[左] 金戸 浩	2	投犠			三振		遊ゴ			中直		三振		左飛		遊ゴ		三ゴ	
	[遊] 北 安博	3	遊ゴ			左安		左飛			三振		中安		左安			二飛		遊ゴ
	[捕] 川井 直之	2	三振			中安		三振			左安		三振		中安			死球		中安
	[投] 堅田 外司昭	3		右飛		左安			左飛			左飛		二ゴ				二安		中安
	[右] 音 重鎮	1		二ゴ		投ゴ			右安			三ゴ			左安		遊飛		投ゴ		三邪
	二 高桑 充裕	1																		
	[中] 山下 靖	3		三振		中飛			右安			右安		四球			二ゴ		右安		中安
	[二] 石黒 豊	2			遊飛		二飛			三振		三振		二失			投ゴ		三振		
	打右 久木 亮	2																			三振
	[三] 若狭 徹	2			三振		三振			三振			三振	三振			中安			投ゴ	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
箕島 尾藤公監督(36)	[捕] 嶋田 宗彦	3	三邪		左安		中飛		中飛		右飛			左本			三ゴ		左飛	
	[左] 宮本 貴美久	2	三振		遊ゴ		四球		三飛			右安		二ゴ			投犠			
	打 辻内 崇志	2																		四球
	[二] 上野山 善久	3	左2			右安	三ゴ		右飛			二飛			中飛		三ゴ			三振
	[一] 北野 敏史	3	三ゴ			一ゴ	左飛			二ゴ		中飛			二直			二ゴ		四球
	[遊] 上野 敬三	3		遊直		左安		死球		遊ゴ			三飛		中飛			三振		左安
	[中] 森川 康弘	2		二ゴ		右安		四球		遊ゴ			三ゴ			右安		左本		
	[右] 久保 元司	3		中飛		遊ゴ		投ゴ			遊失		二飛			一犠		左飛		
	[三] 榎本 真治	3			遊ゴ	四球														
	打 石橋 延浩	3						中飛												
	三 浦野 泰之	3									左安			遊ゴ		遊ゴ			三ゴ	
	[投] 石井 毅	3			三振	投ゴ		二ゴ			一ゴ			捕ゴ			中安		一ゴ	

堅田投手

投球回	17⅓
打者	68
被安打	12
奪三振	4
四死球	6
投球数	208
自責点	4

石井投手

投球回	18
打者	71
被安打	19
奪三振	16
四死球	2
投球数	257
自責点	2

かつての名勝負を振り返ります

全国高校野球選手権大会はこの夏で96回目を迎えます。第100回大会となる2018年夏に向け、かつての名勝負を振り返る連載を連日お送りします。

1979年（第61回大会）の箕島―星稜は4月中頃まで続きます。第2シリーズでは、甲子園のアイドル・荒木大輔が「やまびこ打線」と対決する1982年の池田（徳島）―早稲田実（東東京）を予定しています。

このコーナーを切り抜いて貼れる専用のスクラップブック（無料）も2月上旬に出来上がります。入手方法などは、改めてお知らせします。

No.0001